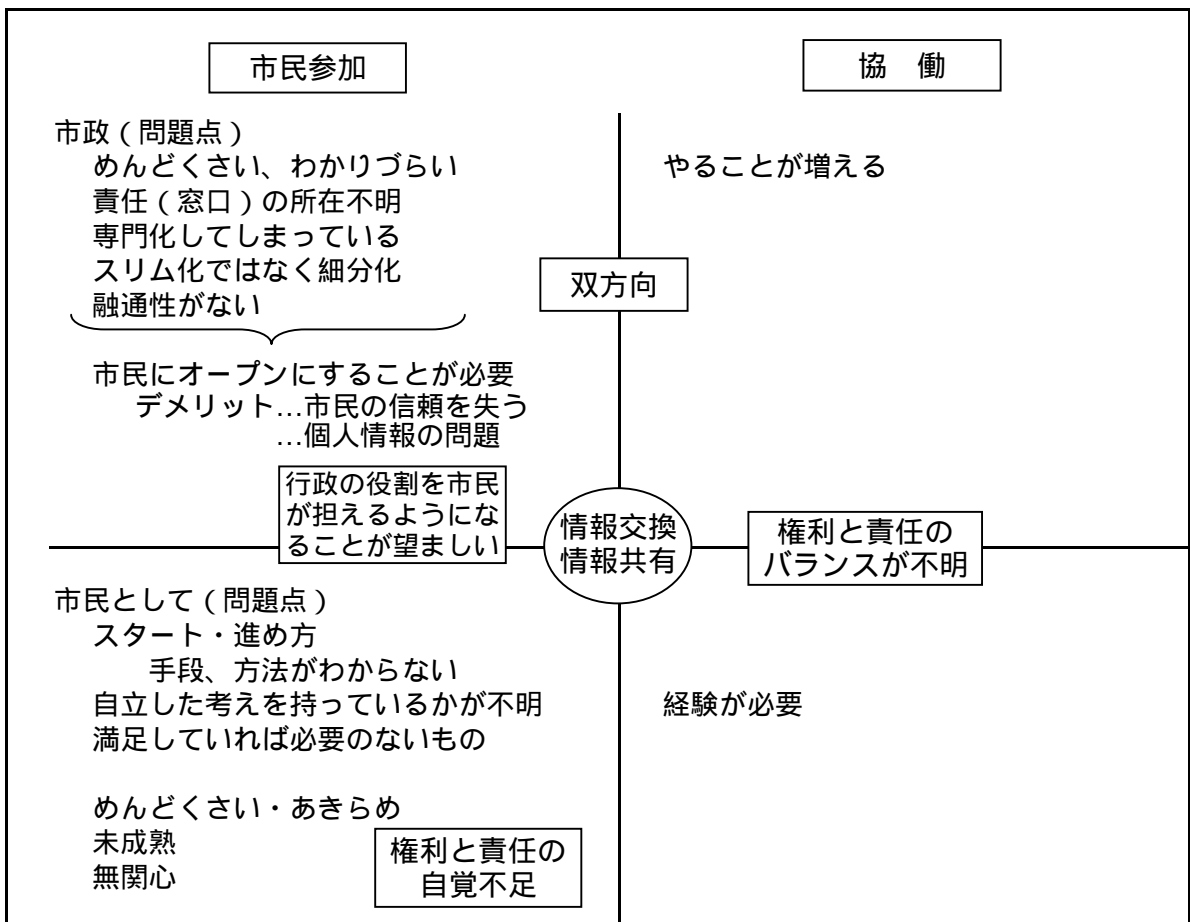
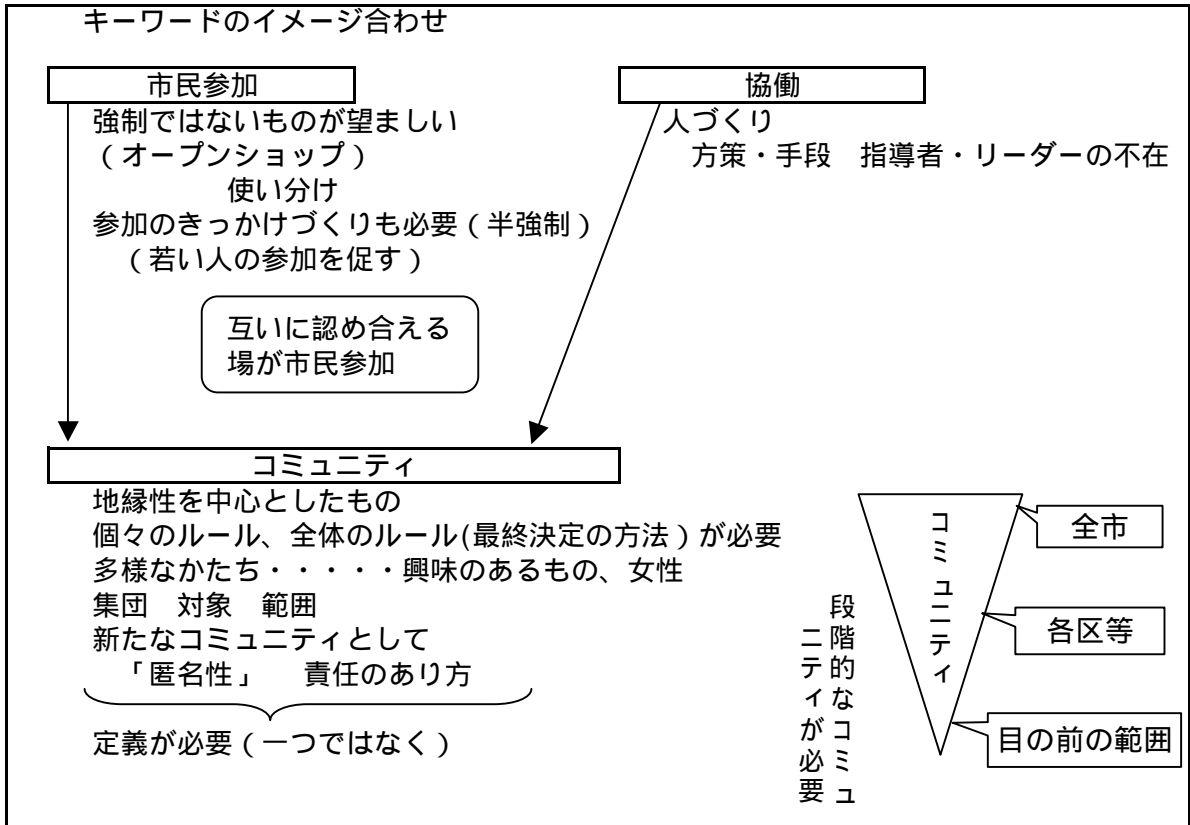


5班ワークショップ内容

(1) 班内各意見の背景の確認

- ・キーワードのイメージ合わせから入った。

ホワイトボード板書



発表内容

「コミュニティ」

- ・地縁性、つまり自分たちが生活していくうえで目に見える範囲を中心とした小さなものから、全市的な大きなところまで、様々なジャンルがある。
- ・また、趣味や職能など興味のある範囲等、多様な形も新たに増えてきている。
- ・我々が生活する地域も、目の前に見えている範囲から各区、全市とあり、その地域に縦軸横軸と様々なジャンルが重なることから、段階的なコミュニティが必要。
- ・自治基本条例に盛り込むためには定義が必要だが、それは一つである必要はない。
- ・どのようなコミュニティが自分たちの自治の中で必要となってくるのかを今後考えていかなければならない。

「市民参加」

- ・「市（行政）と市民」「市民相互」という立場が考えられる。
- ・現在の不満点を認識することで、どのように改善していくべきかという次のステップへと結びつけることができる。
- ・大きな不満は、市民から行政に対して意見を述べる際の窓口や責任の所在が不明であること。
- ・現在は市民と市が互いを理解するための方法が未成熟な状態。
- ・「市民相互」では、諦めや無関心という現状がある。
- ・それを改善するための方向性の一つとして「協働」があるのではないか。
- ・市民参加、協働の中軸となるのが「情報交換、情報の共有化」

「協働」

- ・「やるが増える」というイメージ
- ・権利と責任のバランスがわかりにくい
- ・例えば、市の補助金交付等で監査を行う専門的な市民が出てくるようなところまでいけば、成熟した協働になる
- ・成熟した協働になることで、次のステップである「市民と市民の協働」へと行くことができるのではないか。

(2) 班としてのカテゴリーの決定

- ・カテゴリーの決定までには議論が至らなかった。